

(3) 吉祥寺活性化協議会 会長説明「吉祥寺活性化協議会の取り組みについて」

【吉祥寺活性化協議会 本田拓夫 会長】

吉祥寺については、行政・商工会議所・商店会連合会の協力をいただかないと活性化していかないということがあります。まして、南北商店会が多数ありますが、これを全部活性化することは大変なことです。まして吉祥寺は30数年の間に成熟したまちで、もう一度活性化することは、並大抵のことではありません。東に新宿、渋谷、池袋があり、西に立川があります。地域間競争になって、吉祥寺が何をしてい



けば勝っていけるのかも考えながら、ランドデザインとは違った、商業者として、今日、明日、何が必要なのかという、切実なことを吉祥寺活性化協議会は考えています。

吉祥寺ランドデザインの進み方が遅いと、皆様から「何をやっているんだ」という意見が出てくる場合もありますが、实体经济を支えているのは商業者ですので、そういう点でなかなか思うように行政と合致して、地域を開発、まちづくりをしていくということは大変難しいです。それでもやらなければならないというのがこの協議会の主な取り組みでして、犬や猫のこともやっています。

駅改造についても、問題提起を出し、要望書を出して、吉祥寺の駅だけがよくなればいいのかと提言しています。30数年かけてきた商店街がだめになってもいいのかということから、駅の方たち、JRの方には要望を聞いていただきたいということで、反対ということではなくて、まちづくりに協力いただきたいということでお願いをしています。

商工会議所の会頭、商店会連合会の会長からも協力いただいています。商業者は、昨日までよかったとしても、突然こういう金融恐慌に始まり、これがいろいろな面にじわじわと真綿で首を絞められていくような状態になり、今まではよかったが、今後どうするんだということになったときに、すぐにパチッと転換することができなくなっています。

今日も「ああ、まいったな」と思ったのは、三鷹市で、1万円で千円お得な10%分のプレミアム付の市内共通商品券が発売されたということです。これは三鷹に先を越されてしまったということも反省点として考えながら、今後の吉祥寺の振興についても、細かいところにも手を出さないといけないところに来ているのだと思いました。活性化すればいい、いろいろなものをつぎ込めばいいというところから、急遽そうではないようなところに来ているのではないかと思います。こういうときに、吉祥寺活性化協議会は何をするんだということになると、皆様と一緒に力を合わせて、「吉祥寺はすごい、さすがだ」と言われるような、違ったイベント展開をしなければいけないかと考えています。

買物に関しても、もう少し小回りのきいたことを考えないといけません。お子さんを抱えられた方たちのために、育児ができるような場所もつくっていかねばいけないとか、あらゆる方面で吉祥寺活性化協議会は取り組まなければならないのです。



この協議会の事の起こりは、1990年代前半に、新宿をはじめ、立川や国分寺に、新たに大型商業施設の出店計画が出始めた状況の中で、吉祥寺はそれらに対抗していかなければならないというところから、平成3年に協議会が設立されたと聞いています。

主たるメンバーは商業者、大型店、企業、各種団体、個人の方も含めて、大いなるまちづくりに向かっていこうということで、成熟された商業地域にはなりましたが、何か欠けている部分があるのではないかと思います。物を売ったり買ったりするだけでいいのかということから、私は本業が映画館でして、文化性をもう少し取り上げたほうがいいのではということで、吉祥寺グランドデザインにあるように、独自の文化は吉祥寺の誇りだと、買物も文化も一緒に持って行ってくださいと。これは立川にも負けたくない、新宿・渋谷のああいふ騒然たるまちの中にでき上がった文化ともまた違ふと。そういうことで、吉祥寺独自の文化性を保つことが、吉祥寺の活性化の1つになるのではないかと思います。



アートピクニック2008（井の頭公園）

もちろんまち全体がいろいろと発展しなければいけません。井の頭公園という大きな自然をなぜ生かそうとしないのか、今のままの井の頭公園でいいのかということで、2年ぐらい前からテーマを絞ってきていますが、公園が100周年まであと9年です。第1弾で、昨年公園の中の「アートピクニック（※）」をやりました。今年もやりました。井の頭公園の池の水をもっと昔のように、きれいにしたいということも、あと9年のうちにできるでしょう。

また、井の頭公園の動物園は、北海道の旭山動物園に及びません。公園の中の有名な水族館を今の子供は知らないのではないかと思います。今の小さなお子さんは、サンシャインの水族館など、大きな水族館に慣れていきますから、井の頭公園の水族館も大型化して、作り直していただいたほうがいいのかもかもしれません。あるいは、公園の中に、吉祥寺が目指していますアニメタウンの象徴として、テーマパークなど、アニメ関係の業者に集まっていって、アニメを活性化すればいいという考えもあります。お隣にジブリの森の美術館があります。すでにある吉祥寺の独特の要素を大事にしなが、まちを活性化していくということも1つのやり方です。

（※）アートピクニック…ニューヨークのセントラルパークなどから始まった、都会の賑わいを創出する「パークピクニック」の日本版としての企画。井の頭公園から生まれたアーティストが中心となり、コンサートや各種イベントが行われる。平成20年は、11月1日から2日まで開催された。主催は、井の頭公園が開園100年を迎える平成29年に向けて、地域と連携して公園のあり方を考え、行動するために、市民・関係団体・行政が参加して、平成18年に発足した「井の頭恩賜公園100年実行委員会」。

コンパクトシティという言葉がありますが、吉祥寺は路地裏文化です。路地裏がいっぱいあるまちは、どなたにも好まれる住みたい街ナンバーワンの一つの要素にもなるし、交通の便もよいので、多くの人を訪れます。そういう意味でも、公園が完全に定着化されています。エコの問題についても、公園の緑化をもっと進めるなど、吉祥寺の3分の1を占める公園が必ず環境をきれいにしてくれる場所になればということも考えられます。

井の頭公園は、東京都のものです。一昨年までは、武蔵野・三鷹で共催するようなイベントがなかったことが、邑上市長と三鷹の清原市長が話をされ、昨年からは井の頭公園で始まりました。これは画期的なこととして、少子化になり、人口が減っていくときに、武蔵野だけで成り立つわけではないのです。これからは三鷹も境も含めてやっていく時代です。そのためには武蔵野市の誇りとなるものを大きく活性化するのも、協議会としての役割かと思えます。幸い、南北の商店会の会長に助力をいただいています。サンロード商店街の理事長の木村さんに商業部会の部会長になっていただき、平和通りの理事長の塚本さん筆頭に4名の方に副会長になっていただき、商店街かくあるべきという話を月1回の幹事会でしています。春秋のイベントだけでなく、夏祭りや秋祭りのお手伝いもしています。

『グーグーだって猫である』という映画が今年封切られたんですが、これは吉祥寺を舞台にしたロケとして、この映画を見ると吉祥寺がよくわかるということから、これを皆様に応援していただいた結果、全国の約300近い映画館でこの映画が上映されていました。この映画を見て、「吉祥寺知ってるよ」「行ってみたいね」「もう一度行きたいね」ということで、来たときに、「ああ、この店、あったわよ」という話ができる流入人口が増える、そして実体経済も伴うという、そういうことも1つの活性化のやり方ではないかと思えます。

そのほかに、秋の公園での「アートピクニック」、それが終わりますと、11月3日が点灯式でしたが、駅前できれいなイルミネーションをやっています。イルミネーションはどこでもやられていますが、吉祥寺の1つのポイントであるということ、それが観光につながるのではないかと思えます。この中で年末の12月28日から、「武蔵野吉祥七福神めぐり(※)」の七福神がイルミネーションの中に取り入れられます。商工会議所の商業部会で作り上げた七福神めぐりを応援しようではないかと考えました。いろいろなことをやるだけではだめで、1つのいいことはみんなで応援して行って、もっと高めようということも考えた結果、イルミネーションが定着してきているということで行うこととしました。



吉祥寺駅北口のイルミネーション
(武蔵野吉祥七福神を取り入れたもの)

(※)武蔵野吉祥七福神めぐり…「賑わいのあるまち」「活気あるまち」創出の一環として、平成19年から開始。市内の寺社やバス会社の協力を得て、約30分間隔で特別バスを運行し、武蔵野に点在する寺社を巡る。平成21年は、1月1日から10日まで実施された。主催は、武蔵野商工会議所。

実体経済は厳しい状況にあり、常に今日、明日、明後日のことを考えなきゃならない商業者たちは必死です。今日は商店街って一体何だろうというような方もいらっしゃると思うんですが、市民としての要望は、「早く駐車場をつくってよ」「駐輪場つくってよ」「こんなまちでいいの」というようなことで、商店街は何をやっているんだというお声もあるかもしれません。商店街は、かたまりは大きいですが、実際は、あまりお金がないということから、商店街独自の駐輪場、駐車場を持たなければいけないんですが、それもできません。これはやはり行政と一緒にやってやらなければならない問題ですが、地下利用に関しても、これは昔からそういう問題は出ているんですが、ようやくそういう声が高くなってきて、もう具体的



に始めなければ遅いというか、もう既に遅れをとっているわけで、市のアンケートの中では、一番苦情の多い問題だったはずですよ。

それと同時に、商業者として、活性化協議会の塚本副会長が行っています交通問題は大変な状況になっています。自分のところの車を表に出しているわけではなくて、荷捌きをする車が1日何台来て、どこでどう停めて、どうやっているのかということに関しては、通常、商業者が知っているわけです。しかし、それすら知らない吉祥寺の商業者は、胸を張ってはいられないということから、塚本副会長は警察の方と協議を重ねて、来年の春頃から吉祥寺方式という形で荷捌き車を何とかクリーンにしていくということまで、たどり着きました。商業者でありながら、まちづくりを皆様と一緒に考えています。

商店会の会長は、何をやっているかわからないと言う方もいると思いますが、自分の仕事を投げ打って、まちのことを一生懸命考えています。そういう方たちが協議会で集まって、毎月会議を開いているということで、ぜひとも皆様のご理解をいただきたいと思います。協議会は、ただイベントをやっている団体ではなくて、イベントを通してまちのあり方を探り、まちの発展を望み、明日への経済に高めていこうということを目指しています。行政の力のようなものは持っていませんが、商業者の集まりというのは、皆様の生活に結びついていることが多いので、明日のためのまち、商店街はこうだ、ああだということは毎日のように議論百出して、話し合っているわけです。どうぞ、その辺もご理解いただきながら、よろしくお願いをしたいと思います。